



大津波、三陸3メートル予想

列島各地に警報、午後到達

南米チリ中部沿岸で起きた巨大地震で、気象庁は28日午前9時33分、日本の太平洋沿岸全域に津波警報を出した。青森県太平洋沿岸と岩手県、宮城県には最大で3メートルの津波が来る恐れがあるとして大津波警報を出した。大津波警報が出されるのは93年の北海道南西沖地震以来17年ぶり。同庁の関田康雄・地震津波監視課長は「津波到達の時刻の前には高台に避難し、海岸には絶対に近づかないで欲しい」と話した。

気象庁によると、津波の第1波は28日午後1時ごろから午後4時ごろまでの間に日本の太平洋沿岸に到達するとみられる。津波の高さは三陸地方で最大3メートル、そのほかの太平洋沿岸では最大2メートル、瀬戸内海沿岸などでも最大50センチ程度になると予想される。津波が陸上に来た場合には海岸線の2～3倍の高さの場所まで到達することが

あるため、同庁は「遅くとも30分前までには高台に避難してもらいたい」としている。また、遠方で発生した地震の場合、最初に来る津波よりも後に来る津波の方が高くなるため、到達予想時刻が過ぎた後も数時間程度は海岸線に近づかないなどの注意が必要になる。2メートルを超える津波では木造家屋が全壊するとの専門家の報告もある。

津波が到達する時刻は日本列島の各地が満潮時間のため、河川のはんらんなどによる浸水の危険性もある。



大津波の予想到達時刻と高さは次の通り。時刻はいずれも28日午後。

【大津波警報】青森県太平洋沿岸(1時30分、3メートル)▽岩手県(1時30分、3メートル)▽宮城県(1時30分、3メートル)